2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p><u>上位目標：対象地域の治安状況を含む生活環境が改善する。</u></p> <p>青少年リーダーの育成、コミュニティ・グループの形成と活動を通じて、地域に一体感が生まれ、また住民同士の信頼関係が醸成された。それらの活動を、地域の学校や保健所、地域警察、NGOなどと連携して実施したことによって活動の幅が広がり、地域の衛生環境や景観が改善されるなど、住民が安心して、快適に居住できる環境への変化が見られている。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>活動1：コミュニティ・グループの自立発展的な活動</p> <p>(1) コミュニティ活動の計画・実施・評価 対象3地区（フロール・デル・カンポ、アレマン、ラ・ホヤ）において形成されたコミュニティ・グループ（地域住民によって構成）が関係機関と主体的に連携し、各地区6回ずつコミュニティ活動を計画、実施、評価した。本事業スタッフは、各グループの活動計画の策定会合や、活動が実施される際に同席し、サポート・助言を行った。活動の内容に応じて、コミュニティ・グループが、地域警察や COMVIDA などの関係機関に協力を要請したり、行政や民間企業に物品寄贈を依頼したり、また地域警察や保健所などのサービスといった地域のリソースを活用したりして、自立発展的な活動が実現した。</p> <p>(2) コミュニティ・グループを対象としたフォローアップ研修 対象3地区のコミュニティ・グループメンバーに対して、計4回にわたり研修を実施した。研修テーマはホンジュラス共和国の「国家ビジョン」、「国家計画」、「コミュニティ参加」、「コミュニティの社会貢献」とし、平均約50名の参加があった。普段意識することの少ない国家政策について学ぶとともに、各地区のコミュニティ・グループが、「国家」を「コミュニティ」に置き換えて、それぞれビジョンや計画について考える場となった。また、研修を3地区のコミュニティ・グループ合同で行ったことで、他地区のコミュニティ活動についても情報交換ができ、互いに学びを得る機会になった。</p> <p>活動2：対象地区の青少年の育成</p> <p>(1) ピアエデュケーション活動の計画・実施 対象3地区にある学校（3校）において、それぞれ全5回にわたる、青少年リーダーによるピアエデュケーション活動を実施し、各回平均306人の生徒が受講した。テーマは青少年リーダーと教員たちの関心が高かった、自尊心、価値観、暴力、薬物、リプロダクティブヘルスを取り上げた。ピアエデュケーション活動の実施にあたっては、青少年リーダーたちが自主的に集まり、研修の進め方や教材の準備を行った。学校側も青少年リーダーたちによるピアエデュケーション活動に対し、研修時間や授業カリキュラムの調整を行う等、協力的であった。</p> <p>(2) 校内クラブ活動の実施 対象3地区にある学校（3校）で青少年リーダーが中心となってクラブ活動の計画を立て、各校3～4回実施した。活動内容は、科学講座、心理カウンセリング、ダンス、フォルクローレ舞踊、演劇、ヨガ等で、各回平均40～90人程度（学校によって異なる）の生徒が参加した。生徒達にとって普段なじみのない活動の際には、関係機関である国立自治大学心理学部の協力を得ることができ、同学部生がインストラクターとして参加した。</p> <p>活動3：青少年育成マニュアルおよび住みやすいコミュニティ活動マニュアルの作成、関係機関への紹介</p>

	<p>3年にわたる活動（本事業は3年目）の実施過程で培われたノウハウを「青少年および青少年リーダーの育成・コミュニティ・グループ形成マニュアル」および「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」の2冊にまとめ、青少年リーダー、コミュニティ・グループ、各関係機関へ配布した。事業の最終月には関係機関へのマニュアル紹介に加え、本事業スタッフおよび受益者である青少年リーダー、コミュニティ・グループが3年間を通して得た成果を発表し、受益者や事業関係者約120人が、それぞれの立場から本事業を実施する意義について、直接出席者に語った。また、本事業が終了した後も、青少年リーダーやコミュニティ・グループリーダーが中心となり、地域住民を巻き込みながら「住みやすいコミュニティづくり」を進めていけることを伝えた。関係機関からは、本マニュアルはホンジュラスの現実に沿った内容で使い易いというコメントや、関係機関の研修に実際に取り入れ活用したいという肯定的なコメントを得られた。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>事業目標： 対象地域においてコミュニティ・グループと青少年主体による「住みやすいコミュニティ」づくりを目指した活動の実施体制が確立される</p> <p>【指標1】 コミュニティ・グループと関係機関との協力関係が構築される。 ⇒本事業開始時は当団体を通じて各関係機関と連絡を取っていたが、活動を計画・実施、評価するサイクルを繰り返すことにより、コミュニティ・グループが関係機関へ直接連絡し、活動協力を取り付けるための申請書を提出する等、主体的な活動が顕著に見られるようになった。また関係機関も、それらの要請に対して可能な限り協力していることが確認できた。</p> <p>【指標2】 地域の青少年によるコミュニティ活動への参加が増える。 ⇒青少年リーダーたちは、学業や学校行事の忙しい合間を縫ってコミュニティ活動を積極的に計画・実施している。地域の青少年たちも、コミュニティ活動を認識して徐々に参加するようになり、活動内容によってバラつきがあるものの、平均86名の青少年がコミュニティ活動に参加した¹。またフロール・デル・カンポ地区で実施されたサッカー大会には、普段活動に参加しない非就学、非就業の青少年（薬物使用者含む）を含む158人が参加した。これは、青少年リーダー、コミュニティ・グループや本事業スタッフの日頃の声掛けから、信頼が得られたことによる結果である。事業開始当初にはコミュニティ活動に参加する青少年は存在しないに等しい状況であったことを考えると飛躍的な増加であったと言える。</p> <p>【指標3】 対象住民の中で「住みやすいコミュニティ活動」の重要性を認識・理解する人が増える。 ⇒コミュニティ活動実施時に、毎回平均30名の参加者にアンケートを行い、活動の重要性や意見を聞くとともに住民たちの認識・理解度を測ったところ、事業終了時には72%の住民がコミュニティ活動の重要性を認識し・理解していた。自由記入欄には、このような活動が、地域の環境向上や人々の結束を強くする、地域の安全向上につながるなどのコメントもあり、活動の目的が浸透してきていることが伺えた。事業開始当初には、コミュニティ活動は自治会や一部のメンバーが内輪で実施し、ごく限定的な</p>

¹ フロール・デル・カンポ地区では延べ579人、アレマン地区では537人、ラ・ホヤ地区では延べ180名の地域の青少年が参加した。最も参加者が多かったのはフロール・デル・カンポ地区で実施した思春期リプロダクティブヘルスイベントで、244名の青少年が参加した。

活動であったことから、本事業を通じてその重要性を認識・理解する人が増加したものとと言える。

【指標 4】関係機関から本事業が「住みやすいコミュニティ」づくりのモデルとして認識される。

⇒マニュアルを配布した関係機関のうち、19 機関にアンケート用紙を配布した。12 機関より回答を得ることができ、全てがこのマニュアルをモデルとして活用し、活動できると回答したことから、本事業は「住みやすいコミュニティづくり」のモデルになりうると考えられる。自由記入欄にも、本事業を通じてこのモデルの成功が実証されており、価値のあるマニュアルであるというコメントが見られた。

成果 1：コミュニティ・グループが自立発展的に活動を実施する

【指標 1-1】コミュニティ・グループが主体的に（事業側のサポートなしに）活動を計画・実施している。

⇒対象 3 地区のコミュニティ・グループ全てが主体的に活動を計画・実施している。コミュニティ活動は各地区において 6 回計画され、その全てが実施された他、各地区でそれ以外の自主的なコミュニティ活動も実施された。例えば、フロール・デル・カンポ地区のコミュニティ・グループは、昨今のジカ熱の流行に対して、同地区保健所と協働で住民たちに蚊の発生を予防する努力をするよう啓発活動を行った。またアレマン地区では、公共スペースの充実を目指し、幼児たちが遊べる公園を作ることに尽力した。

【指標 1-2】コミュニティ・グループメンバーの 9 割以上が、活動モニタリングに参加する

⇒活動当日にコミュニティ・グループメンバーの 9 割以上が、活動に参加した地域住民へのアンケートを行ったり、反省会の時間を持って実施した活動について意見交換したりするなどの方法で、活動モニタリングを行った。

【指標 1-3】コミュニティ・グループメンバーの 7 割以上が、研修内容に関する知識・能力が向上したと認識する

⇒コミュニティ・グループメンバーに対し、研修実施前と実施後にテストを実施した。正答率は事前テストの 76%から事後テストの 85%へ向上した。また、コミュニティ・グループメンバー 50 人中 43 人（86%）が研修内容に関する知識・能力が向上したと認識している。

成果 2：地域の青少年が育成される

【指標 2-1】青少年育成活動が青少年リーダーによって計画され、その 8 割が実施される

⇒ピアエデュケーション活動は各校全 5 回が計画され、5 回全て（100%）が計画通り実施された。

【指標 2-2】ピアエデュケーション対象者の 8 割以上が、内容に関する知識・能力が向上したと認識する

	<p>⇒ピアエデュケーション対象者 306 人の内、テーマに関する事前テスト (208 人) と事後テスト (265 人) を実施した結果、テスト結果の正答率が 69%から 88%に向上した。</p> <p>【指標 2-3】 学校内クラブ活動が実施される ⇒対象校各 3 回のクラブ活動が計画され実施された。</p> <p>成果 3: 青少年育成マニュアルならびに「住みやすいコミュニティ」づくりの活動のガイドラインが作成され、地域の関係者の理解が深まる</p> <p>【指標 3-1】 青少年及び青少年リーダー育成マニュアルが作成される ⇒青少年研修、青少年リーダー研修、コミュニティ・グループの形成についてまとめた「青少年、青少年リーダー育成、コミュニティ・グループ形成マニュアル」200 冊が作成された。本マニュアルには研修に関する記載に加え、コミュニティ・グループの形成、活動の実施についても詳細にまとめており、青少年リーダー、コミュニティ・グループメンバー、地域警察、学校、その他関係機関などに配布された。</p> <p>【指標 3-2】 「住みやすいコミュニティ活動」のガイドラインが作成される ⇒コミュニティ活動や関係機関との連携の事例、活動の際に利用できる書類のフォーマットなど、コミュニティ活動の実践についてまとめた「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」が、750 冊作成された。</p> <p>【指標 3-3】 関係機関から青少年育成・コミュニティ活動の方法が理解される ⇒マニュアルを配布した関係機関のうち、19 機関にアンケート用紙を配布した。12 機関より回答を得ることができ、全てが、マニュアルではそれぞれのテーマについて分かりやすく説明されており、青少年育成・コミュニティ活動の方法について理解することができたと回答した。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業は下記のとおり 3 年計画として実施された事業の最終年に位置する。</p> <p>1 年次：体制構築（青少年育成、コミュニティ・グループ形成） 2 年次：体制強化（青少年リーダー含むコミュニティ・グループによる活動実施を通じたコミュニティ活動実施体制の強化） 3 年次：体制確立・モデル化（活動の発展、主体的なコミュニティ活動実施体制の確立とモデル化）</p> <p>3 年間を通し、青少年リーダーおよびコミュニティ・グループの成人による活動が自主的に行われるよう促し、事業最終年である本事業においては、関係機関とコミュニティ・グループの連携体制が確立された。今後は、各アクターが 2 種類のマニュアルを活用しながら自主的に活動を進めていく。青少年育成に関しては、青少年リーダーによるピアエデュケーションの継続を対象校の教員が支援することを、教員、青少年リーダー、および本事業スタッフで確認した。また、本事業同様の活動が他地域で行われる際には、本事業対象地域をモデル／グッド・プラクティスとして積極的に紹介してもらえよう、関係各所に伝えることで、地域住民のモチベーションを維持し、自立発展的な活動が継続されるよう後方支援を行っていく。</p>